

目 次

まえがき	iii
筆者の笑いの研究経過	vii

第 I 部 ジョークと関連性理論 I (基礎編)

序 論	2
第 1 章 表意に基づくジョークの分析	7
1.1. 基本レベルの表意	7
1.2. 高次レベルの表意	19
第 2 章 推意に基づくジョークの分析	22
2.1. 想定 (=P ならば Q), 表意 (=P), それゆえ 推意 (=Q)	23
2.2. 想定 (=P ならば Q), 発話 (=NOT Q), それゆえ推意 (=NOT Q なら NOT P)	25
2.3. 知識 (=想定) とジョーク	25
2.4. 矛盾した推意により生ずるジョーク	29
2.5. ばかげた想定を用いて生じるジョーク	30
2.6. ばかげた推意に基づくジョークタイプ 1	32
2.7. ばかげた推意に基づくジョークタイプ 2: おおげさな表現	33
2.8. 二つの矛盾する想定に基づくジョーク	34
2.9. 平行処理に基づくジョーク	35
2.10. 質問 (=A and B の違いは?) 答え (=B は + α), 推意 (=A は - α)	36
2.11. 修辭疑問文によるジョーク	37
2.12. 数字を含むジョーク	38

第3章	さまざまな類似性に基づくジョークの分析	40
3.1.	音声的類似性	41
3.1.1.	単に音だけが似ている場合	41
3.1.2.	同音異義語の場合	46
3.1.3.	スプーナリズム (頭音転換 Spoonerism)	49
3.2.	統語的類似性	49
3.2.1.	統語的あいまいさ	49
3.2.2.	異分析によるもの	51
3.2.3.	文レベルの類似性	52
3.2.4.	句 (Phrase) レベルの類似性	53
3.3.	意味的類似性: 命題内容の類似性	54
3.4.	イディオム, ことわざ, コマーシャルなどの定型表現との類似性	55

第II部 ジョークと関連性理論II (応用編)

第4章	日本語による笑いの分析	60
4.1.	吉本の笑いの分析	60
4.2.	川柳の分析	63
4.2.1.	音声的類似性	63
4.2.2.	統語的な分析の違いに基づく類似性	64
4.2.3.	文レベルの分析の違いに基づくもの	64
4.2.4.	語レベルの分析の違いに基づく類似性	65
4.2.5.	文字どおりとイディオムの解釈のずれに基づくもの	65
4.2.6.	語の多義性に基づくもの	65
4.2.7.	ことわざなど決まりきった言い方との類似性	66
4.2.8.	類似した意味領域の場合	66
4.3.	語彙語用論 (lexical pragmatics) の Ad hoc 概念形成 (Ad hoc concept construction) に基づく笑いの分析	66
4.4.	推意 (implicature) に基づく笑いの分析	68
第5章	ポリティカル・ジョークの分析	71
5.1.	ポリティカル・ジョークと表意	71
5.2.	ポリティカル・ジョークと推意	72
5.2.1.	二つの矛盾する推意に基づくポリティカル・ジョーク	72
5.2.2.	ばかげた想定に基づくポリティカル・ジョーク	73

5.2.3.	ばかげた推意に基づくポリティカル・ジョーク	74
5.3.	ポリティカル・ジョークと類似性	76
5.3.1.	音声的類似性	76
5.3.2.	統語的・語彙的類似性に基づくポリティカル・ジョーク	77
5.3.3.	命題内容の類似性に基づくポリティカル・ジョーク	78
5.4.	ブッシュ大統領とジョーク	78
5.4.1.	音声的類似性	78
5.4.2.	統語的類似性	79
5.4.3.	命題内容の類似性	80
5.4.4.	ばかげた想定	80
5.4.5.	ばかげた推意	82
第6章 エスニック・ジョークの分析		83
6.1.	エスニック・ジョークとステレオタイプに基づく想定	84
6.1.1.	ステレオタイプと想定について	84
6.1.2.	ステレオタイプに基づく想定の問題点	86
6.2.	エスニック・ジョークの実例の分析	89
6.2.1.	アイルランド人	89
6.2.2.	スコットランド人	98
6.2.3.	ユダヤ人	105
6.2.4.	ポーランド人	110
6.2.5.	イタリア人	112
6.2.6.	アメリカ人	114
6.2.7.	オーストラリア人	115
6.2.8.	日本人	115
6.2.9.	黒人(アフリカ系アメリカ人)	117
6.2.10.	アメリカ各地のジョーク	118
6.2.11.	ハワイにおけるジョーク	120
6.2.12.	カナダの風土、動物、スポーツに関するジョーク	126
第7章 ジョークとメタ表示		130
7.1.	定義によるジョークの分析	130
7.1.1.	メタ表示でなく、事柄を定義している場合	130
7.1.2.	定義がメタ表示となっている場合	131
7.2.	メタ表示	133
7.2.1.	メタ表示と類似性：文字あるいはスペルの類似性に基づくジョーク	133

7.2.2.	不規則な形態論, 異常なスペルに基づくジョーク	138
7.2.3.	スプーナリズム (SPOONERISM)	139
7.2.4.	スペルと想定 (知識) との関係に基づくジョーク	139
7.2.5.	異常なイディオム解釈に基づくジョーク	140
7.2.6.	パロディー: 統語的類似性に基づくジョーク	140
7.3.	The Two Ronnies: The Four Candles の笑いの分析	140
7.4.	ジョークと指示付与の分析	147
7.4.1.	関連性理論による指示付与 (論理形式を語用論的に豊かにするこ と)	151
7.4.2.	代名詞の指示付与をめぐって	152
7.4.3.	疑問副詞の指示付与をめぐって	156
7.4.4.	その他の指示付与に関するデータ	158
第8章	ことわざの変種とそのジョーク	163
8.1.	ことわざの形式の変種について: 置き換え, 省略, 反意語, 拡張	165
8.1.1.	置き換え	166
8.1.2.	省略	166
8.1.3.	反意語	166
8.1.4.	拡張	166
8.2.	関連性理論による説明	166
8.2.1.	一つの要素のみ置き換えられた場合	166
8.2.2.	統語形式, 語彙形式の類似性 (= パロディー)	168
8.2.3.	表意がおもしろさを出すもの	168
8.2.4.	推意に基づくジョーク	169
8.2.5.	アドホック概念形成に基づくジョーク	169
8.2.6.	処理労力に関わるジョーク	170
8.3.	いくつかの問題となるケースについて	171
8.3.1.	ことわざの一部を用いての変種の例	171
8.3.2.	拡張, 置き換えの場合	171
8.3.3.	反意語	172
8.3.4.	ことわざの推意と表意のずれによるジョーク	172
8.3.5.	ことわざなど決まりきった言い方との類似性	172
[付録 A]	パロディー一覧: 統語的類似性に基づくもの	173

第 III 部 ジョーク研究の問題点〈理論編〉

第 9 章	英語ジョークがなぜ日本人には理解しにくいのか？	180
9.1.	日本語訳の問題	180
9.2.	音声的類似性と訳の問題	181
9.3.	メタ言語の問題	182
9.4.	内容理解不可能（語彙・異文化などの問題）	183
9.5.	笑えなくて問題（ジョークの範囲の問題）	184
	[付録 B] ジョークの評価と問題点：PG 用を集めたジョーク	184
第 10 章	ジョークの説明原理について： ずれの解決理論から最新の関連性理論研究まで	223
10.1.	関連性理論とジョーク 1：Curcó (1996)	225
10.2.	関連性理論とジョーク 2：Muschard (1999)	226
10.3.	関連性理論とジョーク 3：Pilkington (2000)	229
10.4.	関連性理論とジョーク 4：Yus (2003)	230
10.5.	関連性理論とジョーク 5：Yus (2008)	232
おわりに		233
参考文献		237
索引		255